

【題名】もっと保育園に税金を

【学校名・学年】千歳市立北斗中学校三年

【氏名】酒井 萌衣

税についての作文を書くにあたり、まず税について調べてみました。分かったことは、日本に住んでいることで税金を納める義務が生じることと納めた税金が公共サービスの運用などに使われていることです。そこで私は税金が使われている公共サービスの運用のほうを考えてみることにしました。

二年ほど前に「保育園落ちた、日本死ね」という言葉が話題になりました。私も「死ね」という言葉に驚いたことを覚えています。保育園の数が少なく子供を入れたくても入れられない人がたくさんいるようです。保育園に入るのを待っている子供を待機児童と呼ぶそうです。単純に保育園を増やせばいいのにと感じてしまいますが、そう簡単な話ではないみたいです。それは、保育園の運営にも税金が使われているからです。

税金が使われていて保育料が安く設定されているのは認可保育園といって国が許可した保育園です。認可をもらうには様々な基準をクリアしなければなりません。また、保育園を運営したくても保育士を確保するのが大変難しいようです。あまり給料が高くなく保育士のなり手が不足しているからです。保育園の不足には様々な問題があるようです。

日頃から父は娘の私に「これからは男性も女性も関係ない時代だ」とか「結婚しても仕事を続ける時代だ」とか言います。結婚して子供を産んだとして仕事を続けるには、それこそ保育園は欠かせない存在です。将来、子供を預けられなくて仕事ができなくなったら父の言っているような世の中にはならないのではと不安になってしまいます。私は結婚して家庭を持ち子供も欲しいです。でも、もし保育園が足りなかつたら仕事できません。だから、税金をこの問題に使って欲しいと思います。

そこで、保育園を増やすためにどう税金を使えばいいのか考えてみました。例えば、大きな会社には社員のための保育園の設置を義務付けてそのための補助金にあてる。会社内に保育園があれば通勤時間のムダもなくなります。もちろん、その会社の社員だけではなく他の人も預けられるようにする。他の人を受け入れたらその分も補助金をあてる。そうすると他の人も受け入れようと積極的になり結果たくさんの方が子供を預けられるようになると思います。

このようにして税金を上手に使えば待機児童が減って子供を持つたくさんの女性が安心して働けるようになると思います。税金が上手に使われることによって父の言う男性も女性も関係ない時代が本当に来て欲しいと思います。その時代には子供を産んだ後の不安がなくなっているので、きっと子供を産む女性が今よりも増えていくと思います。そうなれば、今大きな問題である少子化が解決されているのだと思います。